



会津果樹情報 6月号

☆梅雨の季節です☆

☆病害虫防除は降雨前に実施してください! ☆



令和5年6月6日

福島県会津農林事務所 農業振興普及部
(TEL 0242-29-5307)

J A会津よつば あいづ西部営農経済センター

1 気象概況及び予報

会津若松市の令和5年5月の平均気温は16.4℃(平年比+0.2℃)で、平年並みで推移しましたが、一方降水量は62mm(平年比-12.6mm)で、土壌は乾燥傾向にあります。

東北地方の1か月予報(6/3~7/2)によると、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量は平年並みの見込みです。

2 生育状況(6/1現在、会津若松市)

満開が、ももでは平年よりも15日、りんごでは12日早まった影響で、果実は平年よりも大きくなっています(表1)。

また、4月10日、25日に発生した凍霜害により、りんご(ふじ)の中心果結実率が低くなっています(表2)。着果不足の場合は側果・腋花芽を残し、樹勢のバランスをとるとともに、収量の確保に努めてください。

表1 各樹種の果実肥大状況(6月1日調査、暦日比較、平年は1986~2022年の平均)

樹種 品種	りんご		もも	
	ふじ		あかつき	
調査地点	会津若松市 北会津町		会津若松市 神指町	
	縦径	横径	縦径	横径
果実径 (mm)	24	22	40	35
平年比 (%)	103	113	126	148

表2 りんご「ふじ」結実果そう率調査(5月11日調査、会津若松市北会津町)

品種	結実果そう率(%)	中心果結実果そう率(%)
ふじ	48(65)	12(53)

※()内は前年同時期の調査結果

表3 会津身不知の生育状況

発芽観測日	展葉観測日	開花観測日	満開観測日
4月2日 (平年より8日、昨年より8日早い)	4月12日 (平年より13日、昨年より12日早い)	5月29日 (平年より6日、昨年より3日早い)	6月1日 (平年より7日、昨年より3日早い)

3 今後の栽培管理

どの樹種も、梅雨期は特に病気に感染しやすい時期です。
→以下の4つのポイントを抑えて徹底防除しましょう。

病虫害の被害果は、見栄えが悪く、日持ちも悪くなるため、出荷できません。

- 薬剤防除は10日以上間隔を空けない。
- 晴れ間を見て、降雨前に散布する。
- SSはできるだけゆっくり走り、適正量を散布する。
- 夏季せん定を実施し、薬液の通りを良くしましょう。

(1) りんご

ア 仕上げ摘果

今年は凍霜害による着果不足で摘果剤を使用できず、摘果作業が遅れている園地が多く見られます。表4を目安に、満開後60日（今年の北会津「ふじ」なら6月23日頃）までに終了させましょう。

イ 新梢管理

主枝や亜主枝の基部付近の背面から発生した徒長枝をせん除し、日当たりを確保するとともに薬剤の通りを良くしましょう。

ウ 病虫害防除

- ・既に一部園地では斑点落葉病や黒星病（図1）とみられる病斑が見られています。
- ・薬剤のかからない箇所が無いよう散布時は留意するとともに、必要に応じて夏季せん定を実施しましょう！

表4 仕上げ摘果の基準

品 種	仕上げ摘果の目安	必要葉枚数
あかね、つがる、紅玉など	3頂芽に1果	1果あたり45枚
ふじ、陽光、ジョナゴールド 王林、さんさなど	4頂芽に1果	1果あたり60枚



図1 黒星病の罹病果
(2023 5/31 撮影)

(2) かき

ア 摘花・摘果

2L以上の大玉果を生産するためには、摘花をしっかり行うことが重要です。その後、生理落果が終了する7月中～下旬に、小果、傷果、奇形果等を中心に最終着果数を目安に修正摘果を行います（表5）。

表5 結果枝ごとの摘花程度及び最終着果数の目安

新梢長	残す花数	最終着果数
5 cm 以下	0 個	0 果
5～15cm	3 本に1 個	1 果
15～30cm	1 個	1 果
30cm 以上	2 個	1～1.5 果

イ 凍霜害を受けたカキの対応

○新梢が混雑した場合は、主枝・亜主枝の背面や切り口から発生した新梢を手でかき取るか基部から切除しましょう。

○側枝途中の年次変わり等から発生した30～40cm以上の徒長した新梢に対しては、花芽分化期が始まる6月下旬頃に、先端を10～15cm程度摘心することで次年度の花芽分化を促すことができます。

ウ 病害虫防除

落葉病の主要感染期は6～7月で、降水量が多い年ほど発生が多くなります。防除の際は農薬の散布間隔に注意し、降雨前に散布しましょう。また、薬剤散布は防除暦どおりに実施し、定期防除は抜かないようにしましょう。

(3) もも

ア 仕上げ摘果

会津若松市神指町のモモ「あかつき」は6月1日頃に満開後50日となり、「硬核期」に入ったとみられます。硬核期の間に摘果や夏季せん定を行うと、生理落果や果実の核割れ等が起こりやすくなりますので、摘果や夏季せん定は控えてください。

なお、双胚果(図2)があれば、優先的に摘果しましょう。双胚果は正常果と比べて大きく、丸い特徴があります。



図2 双胚果 (2023
5/29 撮影)

イ 病害虫防除

県内では、モモせん孔細菌病が発生しています。せん孔細菌病は降雨で感染が広がるため、今後、梅雨期に感染が拡大する恐れがあります。病斑を見つけたら基部まで切り戻し、園外に持ち出して適切に処分しましょう(図3～5)。



図3 健全な一年枝



図4 春型枝病斑



図5 春型枝病斑

※県農業総合センター果樹研究所より提供

(4) ぶどう

ア 摘粒・・・早期実施により作業効率も良く、十分な果粒肥大が期待できます！

(ア) 目的：果房の形を整えて、商品性の高い果実に仕上げるため実施する。

(イ) 時期：満開後10日～20日（露地だと例年6月25日～7月5日頃）

(ウ) 目安：花穂長 6～7cm（手のひらサイズ）

着粒数 35粒前後

収穫時房重 450g前後

(エ) 摘粒する果粒：下垂果、内向果、変形果、小粒果、サビ果

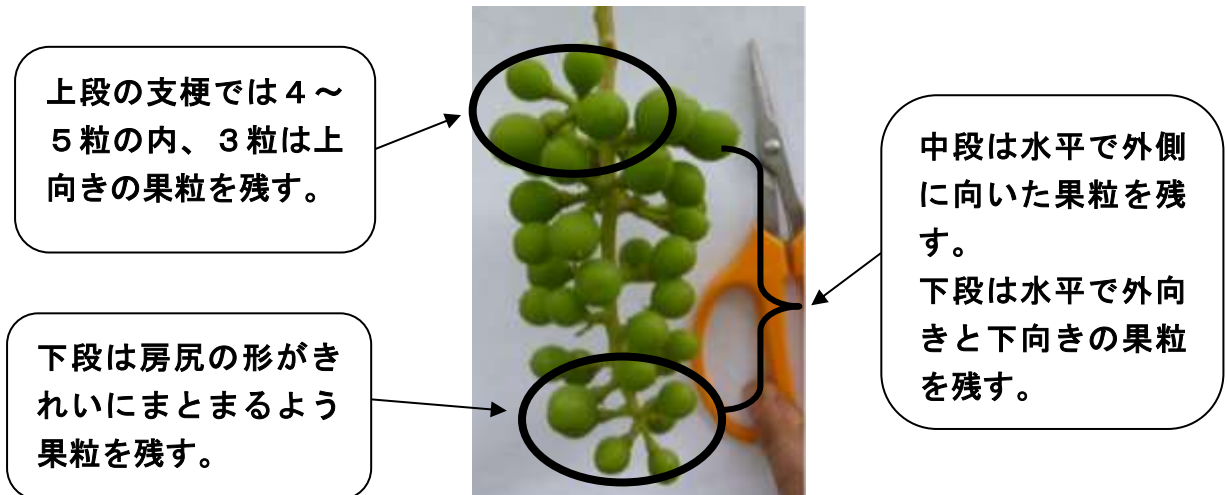


図6 摘粒の目安（シャインマスカット）

イ 病虫害防除

梅雨期は晩腐病（図7）の重点防除期のため、①降雨前の散布、②幼果期（散布後）のカサ掛け（図8）を行う。なお、果面の汚れを防ぐため、袋かけが終了するまで展着剤は加用しないでください。



図7 晩腐病の罹病果
(2022 8/25 撮影)



図8 カサ掛け

○近年、農業災害が多発しています。農業保険（農業共済・収入保険）に加入しましょう！

○降雨により脚立が滑りやすくなります。
せん定で脚立を使用する際は、右の5つの
ポイントを抑えて安全対策をお願いします！

- (1) 設置時に**トントン**と脚を踏み込む
- (2) **天板**に乗らない
- (3) **開脚防止チェーン**をかける
- (4) 昇降時に**物を持たない**工夫
- (5) 脚立から**身を乗り出さない**



○会津若松市でクマの目撃が相次いでいます。朝夕、1人で園地に行かないようにしましょう！